

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、2005年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数45件

	手術名	件数
1	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	15
2	子宮頸部円錐切除術	9
3	附属器腫瘍摘出術(開腹)	4
4	腹式単純子宮全摘術-全腹腔鏡下-(TLH)	4
5	腹式単純子宮全摘術(ATH)	3
6	子宮内膜搔爬術	3
7	腔式単純子宮全摘術(VTH)	2
8	子宮鏡下有茎粘膜下筋腫切出術	2
9	腔壁腫瘍摘出術	2
10	子宮内膜ポリープ切除術	1

2. 産科診療実績

総分娩数 315、出生児数 353(死産 6)、多胎分娩数 38(双胎 38、品胎 0)でこの年度の帝王切開率は 35.0%でした。以前に比べると増加傾向にあります。原因として母体年齢の高齢化と多胎妊娠における分娩割合の増加が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(43.2%)を35歳以上の妊婦が占め、40歳以上の妊婦では12.1%を占めています。また、近年は全国的に出産数が減少しています。当院も分娩数は減少していますが、その中で多胎妊娠の割合が増えています。当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膈分娩や双胎妊娠の経膈分娩、未熟児や低置胎盤の経膈分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016年10月より、毎週火曜日と水曜日、金曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。近年の分娩数減少の中で、多胎妊娠の割合は増加傾向にあります。2022年よりNIPT基幹施設に認定され、出生前診断外来を設置し連携施設と協力しながら毎週月曜日、木曜日に診療を行っています。

● 研究業績

論文

- 1) 沖本 直輝
【周産期(産科)の手術の工夫-筆者はこうしている】頸管縫縮術 経膈手術の手技とコツ
周産期医学,54,8,1057-1062,2024年8月10日
- 2) 福武 功志朗, 塚原 紗耶, 中原 康雄, 杉原 百芳, 甲斐 憲治, 大岡 尚実, 吉田 瑞穂, 沖本 直輝, 政廣 聡子, 熊澤 一真, 多田 克彦
小児期に膀胱外反症に対する修復術既往があり,子宮底部横切開を必要とした妊婦の一例
現代産婦人科,73,1,21-25,2024年12月1日
- 3) 高田雅代, 多田克彦, 水之江知哉, 豊田祐里子, 堀口育代, 米澤優, 吉田瑞穂, 中西美恵
経過を通してFDPの上昇を認めなかった臨床的に子宮型羊水塞栓が疑われた産科危機的出血の2例
現代産婦人科,73,1,37-42,2024年12月1日
- 4) 多田克彦, 宮木康成
人工知能を用いた分娩後異常出血におけるフィブリノゲンおよびFDP境界閾値の決定方法
Jpn J Obstet Gynecol Neonatal Hematol,34,2,83-90,2025年3月1日

学会発表

- 1) 分娩後異常出血において血尿を認めた症例の凝固線溶系検査値の特徴
吉田 瑞穂
第76回日本産科婦人科学会学術講演会 2024年4月20日
- 2) シンポジウム1, 産科 DIC 診断基準の暫定版から改訂版へ「人工知能を用いた分娩後異常出血におけるフィブリノゲンおよびFDP境界閾値の決定方法」
多田 克彦
第34回日本産婦人科・新生児血液学会 学術集会 2024年6月7日
- 3) 分娩後異常出血とDIC. 第1報:血尿を合併した分娩後異常出血症例の凝固線溶系検査値の特徴
吉田 瑞穂
第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024年7月13日
- 4) 分娩後異常出血とDIC. 第2報:AIを用いた血尿合併例のFDPおよびフィブリノゲン境界閾値の決定方法
多田 克彦
第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024年7月13日
- 5) 分娩前に正確に診断した前置血管 type3. low lying fetal vessels の1例
大岡 尚実
日本超音波医学会第60回中国地方会学術集会 2024年9月7日

- 6) 胎児超音波検査で骨盤内嚢胞の形態と target sign 陰性が診断の一助となった総排泄腔遺残の1例
甲斐 憲治
日本超音波医学会第60回中国地方会学術集会 2024年9月7日
- 7) 分娩後異常出血とDIC. 第1報:分娩後異常出血症例における血尿合併例の凝固線溶系検査値の特徴
福武 功志朗
第76回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会 2024年9月23日
- 8) 分娩後異常出血とDIC. 第2報:AIを用いたDICに進展するフィブリノゲンおよびFDP境界閾値の決定方法
多田 克彦
第76回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会 2024年9月23日
- 9) 当院において緊急子宮頸管縫縮術を実施した子宮頸管開大症例の周産期予後に関する検討
浅桐 育男
第17回日本早産学会学術集会 2024年11月2日
- 10) シンポジウムⅡ, 多胎と早産について「多胎診療体制整備により多胎早産率は減少し得るか?—当院多胎診療体制からの考察—」
沖本 直輝
第17回日本早産学会学術集会 2024年11月2日
- 11) 分娩後異常出血とDIC. 第1報:分娩後異常出血症例における肉眼的血尿合併例の凝固線溶系マーカーの特徴
多田 克彦
第49回岡山産科婦人科学会 2024年11月17日
- 12) 当院で管理した妊娠30週未満での古典的帝王切開の検討
甲斐 憲治
第47回日本産婦人科手術学会 2024年11月24日
- 13) 児の骨系統疾患が疑われたが, 未受診妊婦であったため出生前の診断・カウンセリングに苦慮した一例
塚原 紗耶
第21回中国四国出生前診断研究会 2025年2月15日
- 講演、研究会
講演
- 1) 備後地区産婦人科カンファレンス 2024年11月29日
沖本 直輝